日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

父親参加の子どもの健全育成 フォーラム＆ガイダンス 報告書

2008年3月

夢・ふれあい社会
財団法人さわやか福祉財団
子どもと交わろうプロジェクト

本事業の概要

今こそ、子ども主体の健全育成を地域みんなで

目的

文部科学省は、平成19年度から放課後子どもプランを計画し、放課後子ども教室の展開を始めました。この事業は、放課後や週末の学校を安全・安心な「子どもの居場所」として活用しようというものです。当財団では子どもの健全育成のためには「子どもの居場所」は単なる子どもの預かり場所であってはいけないと考えています。

それは、子どもたちは異年齢の子どもたち同士や地域の大人たちとふれあうなかで、人間力（自分で生きていく自助の力と人と助け合って生きていく共助の力）を育むからです。そこで本事業では、放課後や週末の「子どもの居場所」づくりを通じて、子どもたちの人間力の育成することを目的としました。

目標

そのなかで、「父親」の参加は大きな課題です。子どもにとっては父親の存在も母親と同じく大切ですが、地域や学校において、その姿が希薄になっているのではないかということから、「父親」の参加を目標に掲げました。それと、最も大きな課題は子どもの人間力育成の中心となる「子ども主体」の考え方の希薄さです。ややもすると子どもの活動は大人主体に決められ、その芽を摘んでしまっている懸念があります。そこで、この2つを大きな「目標」にしました。

そして、フォーラムでは「遊び」を通じた「子ども主体」の考え方と「父親」の参加を地域の大人たちに呼びかけ、ガイダンス（例えて「遊びの広場」）では父親を含めた地域の人たちに参加してもらい、具体的に理解を深めてもらうことにしました。

実行委員会の設置

この目標を実現するため、全国から盛岡市、宇都宮市、長野市、和歌山市、高知市の5つの地域をモデル地域に選び、フォーラム5回（その他東京フォーラム1回）とガイダンス11回を実施しました。しかけとして、各地域に実行委員会を設置し、その地域で趣旨に賛同し、継続的に関わってもらえる地域の方々を実行委員にお願いしました。

実行委員会の設置により、実行委員を通じたネットワークが形成され、活動の趣旨の普及・啓発やフォーラム・ガイダンスの参加者の募集・受入れ体制等で効果を発揮いたしました。地域によっては実行委員会という形ではなく、教育委員会の協力により、多くの青少年育成団体との連携という形になった地域もあります。

成果

○「遊び」は、父親たちと子どもたちとを結びつけるキーワード。半数近くが参加

今回のフォーラム＆ガイダンスにおいては、「父親」の参加を強調しつつ、地域の大人みんなで子どもたちを支えることを目標にしてきました。地域によっては「父親」を全面にとり出すより、地域全体を巻き込むことが「父親」の参加につながるという意見が実行委員から出され、地域みんなの参加を呼びかけていただいた地域もあります。

その結果、下記の表の通り、フォーラム及びガイダンス全体で多くの地域の方々にご参加いただき、「父親」の参加は全体では38％、ガイダンス（遊びの広場）だけを見ると43％もの父親たちが参加してくれました。「遊び」は、「父親」参加のキーワードであると考えます。

1つの事例を紹介すると、長野市立下鉋野小学校のガイダンスです。ここでは、新しいウサギ小屋を作りたいという子どもたちの思いを実現しようと、父親たちを中心にした「鉋会」とPTA

がいっしょになり、子どもたちも参加して5回に及ぶ作業の末にウサギ小屋を完成したのです。子どもたちのよろこぶ姿は、成し遂げた達成感とともに感動的でもありました。

○やり方次第で、子ども主体の芽が確実に

ガイダンスを実施するにあたり、「子ども主体」の取り組みを理解してもらうことはなかなか難しいことでした。

しかし、ガイダンスによる地域みんなでの子どもたちとの「遊び」を通じて、子どもたちが自ら考え、主体的に取り組む活動への理解が深まっていきました。その結果、平均すると1つのガイダンスに100人以上の子どもたちが参加してくれて、活動の中で子どもたちは遺憾なく自分を表現してみせてくれました。自分から進んで役割を買って出たり、小さい子の面倒を見たり、そして、「遊び」では自由かつ豊かな発想で大人を驚かせながら、楽しい遊びの中で多くのことを学んでくれたように思います。

中でも、特筆すべき取り組みを紹介すると、盛岡市立月が丘小学校のガイダンスでは、子どもたちが「子ども会議」を開催し、自分たちで遊びたい「遊び」を企画し、4つの遊びを実現しました。自分たちの企画を実現したことに大きな自信と達成感を味わっていました。これをサポートしたのは、一足先にできた月小おやじの会でした。

今こそ、大人の心の変革を。子どもたちの準備はできています

子ども主体の取り組みが各地で実現してきています。今後、このような取り組みを広げていくことは、これまでの大人主体の大人の心を変革することで、いつでも広ひろげていくことができます。子どもたちは、いつでもその準備はできているからです。

この報告書をお読みいただいた皆様にも、是非、私たちといっしょに、子どもの人間力を育むために、「父親」も参加した地域みんなによる子ども主体の「遊び」に参加していただき、子どもの健全育成に取り組んでいただければ幸いです。

子どもと交わろうプロジェクト
リーダー有馬　正史

2007年度フォーラム＆ガイダンス参加者集計　　2008. 3

（人）

フォーラム					ガイダンス（遊びの広場）				
	大人（男）	大人（女）	子ども	計		大人（男）	大人（女）	子ども	計
盛岡市	115	135	2	252	下永井地区	81	99	200	380
					月が丘小学校	19	6	37	62
					繋小学校	10	8	18	36
宇都宮市	40	310	－	350	宇都宮大学	40	66	75	181
					陽南地域コミュニティセンター	43	59	70	172
長野市	42	68	20	130	城山小学校	150	200	350	700
					下氷鉋小学校	40	40	120	200
和歌山市	25	45	－	70	雑賀崎小学校	5	20	40	65
					貴志南小学校	24	34	83	141
高知市	23	27	－	50	高知大学	80	120	300	500
					牧野植物園	29	30	73	132
東京	51	72	11	134	－	－	－	－	－
大人男女・子ども計	296	657	33	986	大人男女・子ども計	521	682	1,366	2,569
大人男女（%）	31%	69%	－	－	大人男女（%）	43%	57%	－	－
大人・子ども計	953		33	986	大人・子ども計	1,203		1,366	2,569
フォーラム＆ガイダンス 大人・子ども合計	2,156		1,399	3,555	フォーラム＆ガイダンス 大人男女・子ども合計	817	1,339	1,399	3,555
					フォーラム＆ガイダンス 大人男女（%）	38%	62%	－	－

目　　次

１．本事業の概要　　今こそ、子ども主体の健全育成を地域みんなで

２．各地でのフォーラム＆ガイダンス

盛岡市　フォーラム　「子どもの育ちを地域のみんなで考えるフォーラム」・・・・・ 1
下永井地区三世代交流子ども餅つき大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
月が丘小学校遊びの広場 ・・・ 7
繋小中学校あそびの広場 ・・・ 9

宇都宮市　フォーラム　「地域で支える子どもの育ち、大人の育ち」・・・・・・・・・・・・ 11
宇都宮大学「科学実験遊び」・・・ 15
「ようなんきっず」冬のフェスティバル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

長野市　フォーラム　「地域で育つ子どもたち、大人たち」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
城山小学校　わくわくまつり　プチビジネス体験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
下氷鉋小学校　親子でうさぎ小屋をつくろう！・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

和歌山　フォーラム　「子どもの育ちは地域のみんなで」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
遊びの体験会 in 雑賀崎小学校 ・・ 29
遊びの体験会 in 貴志南小学校 ・・ 31

高知市　フォーラム　「子どもの育ちは地域みんなで」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
高知大学のお兄さんお姉さんと楽しく遊ぼう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
自然と遊ぼう冬の植物園！ ・・・ 41

３．東京フォーラム　「地域みんなで子どもを育てよう」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43

地域コーディネーター・実行委員・協力者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

盛岡フォーラム

「父親の家庭教育への参加を考える講演会＆フォーラム」

日　時：2007年11月25日（日）　13：00～16：00
場　所：岩手県公会堂大ホール
参加者：252人　大人250人（男115人　女135人）
　　子ども2人

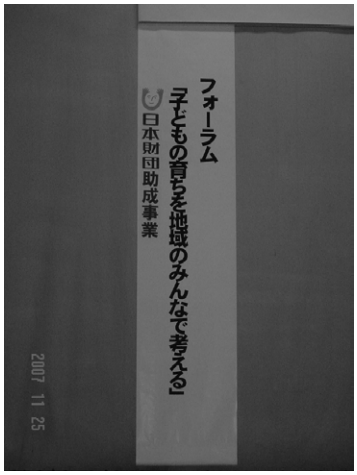
第１部　講演「この頃考えること　～地域や家庭での教育と価値観～」
なだいなださん（精神科医・作家）

アルコール依存は治らない病気と言われていたため、私は「患者の心医者」になった。患者を励まし、よりどころになり、がんばったことを褒めた。現代は心を育てることを忘れている。広い視野を持って大人になることを忘れてきている。断酒会の活動も自分が他人の存在に支えられていることに気づくことで自分も人のためになろうとする。人は成長するもので、協働することの大切さを知り、人の心を察するようになる。

子どもの問題は、大人の問題。責任を誰かに押し付け、成長できない大人が口だけでお説教してもだめ。親が大人としても美学を持っていて、それを見せればお説教より有効。

父親の子育てについて、家族単位の過去の時代の古い理論で現代には通用しない。「父ちゃんに叱ってもらいますからね。」という「叱り役」が父親の役割ではない。父親の役割も時代と共に変化してきている。父親自身が視野を広げ人生を語る役割を果たさなければならない。対面すると限界がある。一番いいのは自然の中に出て子どもと肩を並べて一緒に歩くこと。そこに見えているのは子どもたちのためにも守るべき共通の自然であり、それを見ながら、父親が自分の志を語る。自分の挫折についても語り、志を確認する。父親自身も子どもと語ることで自分の志を再発見する。身の回りにあることを政治でも何でも語りあえるような関係が築かれるべきである。自分の子ども時代を思い浮かべるように肩を並べて語り合いましょう。

第２部　「子どもの育ちを地域のみんなで考えるフォーラム」



○事例発表

奥山　健司さん（仙北小学校おやじの会「仙北クレーマーズ」）

　さわやか福祉財団の「さわやか子ども広場」の実施をきっかけに以前あったおやじの会を2005年に復活。普段あまり学校に行く機会のない父親を学校に呼び込み、子どもたちと遊びや体験を通じてふれあうことを目的にしている。

　遊びを通じたふれあいで、家庭ではなかなか見ることのできないおやじの姿を発見する。おやじの子育て談義も盛んに行われている。悩みは、会員を増やすこと。

　仙北中学校の「おやじのそば屋」を真似て始めた「おやじの餅屋」が好評である。今年度もこれから実施の予定。活動を続けていくことで「おやじの復権」も夢ではない。「全ては未来ある子どもたちのために」

佐々木　章一さん（盛岡市乙部地区公民館館長）

①父親の家庭教育参加促進事業

　親子が自然とふれあい、体験活動を通して、地域の絆、教育力の向上を目指す。

　親子ﾁｬﾚﾝｼﾞ教室では里山登山、水生昆虫と菖蒲探検、乙部川清流探検、豆腐作り、木の実細工など。

②乙部ｼﾞｭﾆｱｽﾃｰｼｮﾝ

　子どもたちの放課後や週末の過ごし方を課題として、異年齢集団のなかで遊びを通して社会性や人間性を培う。

　運営委員会を設置。父親の家庭教育を考える講演会、親子ﾁｬﾚﾝｼﾞ教室、乙部ｼﾞｭﾆｱｽﾃｰｼｮﾝ。子どもたちの積極性、目の輝き、親を見る目が変わってきた。感性も高まり、お互いに協力し、助け合い、教え合う姿が見られるようになり、達成感も生まれてきている。

「五感で感じる活動」と「家で親子が話題にすることができるような感動的な活動」を目指している。
「放課後子ども教室」では、子どもたちが居場所で「遊び」を体験しながら過ごすことが安全な健全育成の場になっている。自然の中で遊びながら、季節の行事を体験する。また父親の参加を積極的に呼びかけることで、父親が活躍する姿を見せることができ、父親の姿を再認識させることができる。子どもたちの親を見る目が変わることや子どもたちの感性の育ちを感じる。

三浦　昌造さん（盛岡市下永井自治公民館長）

永井地区・世代間交流子ども餅つき大会は、新年を迎えるに当たり、子どもたちと高齢者の親睦の輪を広げて世代間交流を図ると共に、中学生による福祉ボランティア活動を通じながら「地域で子どもを育てる会」を目指す公民館、自治会、永寿会、子ども会育成会が中心に実行委員会を組織して実施。これからも、家庭・地域・学校・行政・企業（とくに地域の企業）一体となって子どもの健全育成に取り組んでいく。

世代間交流を活動の中心に据え、三世代交流のためには自治会だけではなく、さまざまな団体との連携によって活動が活性化してきているので、これからさらに継続し広げていきたい。協力関係を築けたことが大きな収穫であり、たくさんの人が集まるための力になっている。

吉田　学さん（繋小学校おやじの会）

おやじの会の発足は、さわやか福祉財団の「さわやか子ども広場」への参加。子どもとの遊びを通してみんなで子育てを考えよう、とりわけ父親の参加を働きかけ、親同士の交流や地域との連携を図ることを目的とした。

様々な行事に繰り返し参加する親子が増え、「おやじの会」は楽しいという評価が広まってきている。

「紙飛行機」のイベントに取り組み、その中に「おやじの手抜きうどん」などのメニューを入れていった。PTAの役員などの負担感を少なくするために、無理せず一度の活動内容に別のメニューを入れて充実させる。また、すでにある地域の行事とコラボレーションを図ることで、地域との連携もできる。

〇参加した子どものコメント：おやじの会の活動についてどう思いますか？

「普段自分たちだけではできない遊びができてうれしかった。人もたくさん集まって友だちのお父さんも遊んでくれるのでとても楽しい」

○　子どもたちに現れた効果

積極性が生まれた。社会性やルールが身につく。教えあいの大切さを知る。挨拶ができるようになる。

お父さんを見直すようになってきた。達成感を積み重ねることで、満足感を得ている。

地域で本物体験をすることで地域への愛着（郷土愛）も生まれる。

○　参加した子どものコメント：自分たち自身が変わってきたこと

「ソフトボール教室をやってから外でみんなとも遊ぶ機会がふえた。小さな子どもたちとも遊ぶようになった。お父さんたちも楽しそうだけど、自分はもっと楽しんでいた。」

○　大人の変化

父親が学校に行く機会が増え、学校の先生とも顔見知りになる。教育にも関心を持つようになった。親同士のかかわりもふえ、子育ての悩みを相談しあったりする。町内会や青年会の行事の参加率も高まる。互いの行事に参加し合い、協力し合うことで互いが活性化していった。地域の活動中にも「子どもたちのためにという」視点が加わってきた。父親たちにとっても、地域にとってもプラスに働いている。

○ 組織運営のポイント

・PTAの役員をきっかけに活動を始めて、一度参加してもらって楽しいと思ってもらう。

・活動を工夫して活動資金を得ていけば、活動も広がっていく。

・学校の協力が大きい。先生方とも仲良く協力をしてもらう。

・自治会を中心に高齢者の団体・学校の小中学校の先生・児童委員・子ども会育成会そして父親たちといろいろな人を巻き込んでいくことが必要。

○ これからの目標

・マンネリにならないようにしながら継続して力をつける　学校や家族も巻き込んでいく。

・他団体との協力・融合・情報を集め発信していくこと

・連携を図って地域ぐるみで子どもを育てる。地域に上手に迷惑を掛けて遠慮しないで連携する。

○ まとめ　高井昭平さん（いわてNPOセンター理事長）

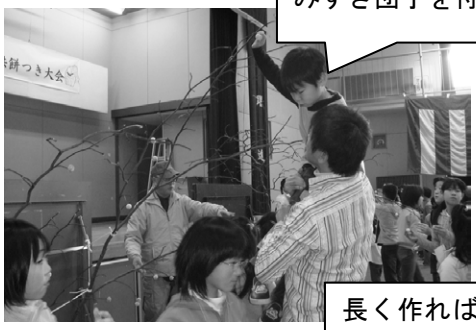
連携によって、限りある地域の力を集める。子どもを地域の中で育てることから地域作りができる。

事務局より

第１部で、なだいなださんから、子どもとの接触がへたな父親への子どもとの接触の仕方についての話があった。威厳ではなく、同じ人としての立場で素直な気持ちで子どもと接することの大切さをお話しいただいた。第２部では、４つの団体の取り組みの紹介から、とにかく実行！する中で、大人も子どもも大きな学びと成長を得ることを参加者は理解したと思う。

下永井地区三世代交流子ども餅つき大会

日　時：2008年1月13日(日)　9：00～13：20
場　所：都南勤労福祉会館
参加者：380人　子ども200人
　　大人180人（男81人　女99人）
　　〔中学生21人ボランティア参加を含む〕
内容：盛岡市郊外の住宅地で、かつて果樹園を中心にした農村地帯であったが、２０年ほど前の町村合併後、住宅開発が進み若い世代だけでなく高齢者の方も含め新住民が一挙に増えた地区。新しい人との繋がりを作るために１６年前より「三世代交流子ども餅つき大会」を企画し、次第にその活動の輪を広げつつある。
餅つきをはじめ、高齢者と子どもたちの交流のために一緒に昔遊び（めんこ・お手玉・あやとり・おはじきなど）をし、縄ないの体験などを行ってきた。
地域の子ども会育成会や地元の小中学校の協力も得られるようになり参加者も年々増えてきている。



みずき団子を付けて。

長く作れば、縄跳びができる(^^)v

一番楽しみなのは、縄ないだよ！！がんばってつくるよ！

もっとがんばれば、みんなで縄跳びもできちゃうよ！！

今年の目玉企画

永井小学校6年生45人による郷土芸能「七頭舞（ななづまい）」の披露

・学習発表会のために学校で練習したので、地域の方にも見ていただきたい。

・　世帯間交流などで、今まで楽しませていただいた地域の方にご恩返しがしたい。

事務局より

けん玉・あやとり・おはじき・お手玉・コマ回し・メンコ・輪投げ、昔遊びをみんなで一緒に。

コマ回し・けん玉がかなりうまい子どもたち。学校でも地域の方が教えているそうだ。スタンプラリー形式でいろいろな遊びにチャレンジしている子。おはじきなどは自分達で勝手に遊びを作っていたり、お年寄りの知恵を学んだり、子どもの新鮮な感覚で遊びを工夫したりしている。

月が丘小学校 遊びの広場

日　時：2008年1月19日(土)　9：00～14：00
参加者：62人　子ども37人　大人25人(男19人　女6人)
ゲーム内容：（ゲーム）・かくれんぼ鬼・宝探し・フットサル・ペットボトルボーリング。
青・赤・白の３チームを構成。１，２年生は親子同一チームとした。

○ゲーム１　宝探しゲーム

校舎の１階から３階までの教室・廊下にかくした３色の石５個以上を制限時間２０分で探し当てる。

なんでもない路傍の石が、子どもたちのイマジネーションで、美しい包装紙に包まれたり、色を塗られたりして、すばらしい宝物に変身した。

子どもたちは、教室や廊下の隅々を一生懸命探し回った。

○ゲーム２　かくれんぼ鬼

親が鬼になり、子どもたちを発見する。１階から２階までを使った。ベランダへ出たらアウト。
階段は、安全地帯。手すりにさわって移動する間は安全。

子どもたちは、日ごろは走ってはいけない廊下をかけぬけ、大人の鬼は追いかけるだけで精一杯。

○ペットボトルボーリング（1～3 年生）

１階廊下を使して、
２レーンを作成。
３チーム対抗。
２～３投の平均で順位を決定。

日ごろは歩くだけの廊下がボーリング場に早や変わり。みんなの歓声が廊下に響いた。

○フットサル
（４～６年生）
３チーム対抗。
１チーム５人、
途中交代あり。
前半５分
ハーフタイム２分
後半５分

子どもたちのエネルギーに、お父さんたちの足元はおぼつかない様子。でも、がんばった。

○お昼はみんなで“ひっつみ”を共同作業でつくり、おいしく食べた。

子どもたちの感想（抜粋）
・お父さんと遊べてよかった。
・みんなの考える遊びはすごいと思った。
・夏にプールで鬼ごっこやバレーなどをやってみたい。
・ひっつみを作るのは、形を考えて作ったのが楽しかった。

◇実現までのストーリー

○盛岡市教育委員会 中央公民館社会教育主事の谷藤康浩さん（６年生保護者）が澤村憲照校長、浅沼金之助教頭に声をかける。

○月小おやじの会設立
・１２月５日（水）月が丘小学校おやじの会を設立。代表を沼田昭さんに決定。
（１１月から会合を開く）

意見続出の子ども会議

○子ども会議開催
・２００７年１２月７日（金）第一回子ども会議、１４日（金）第二回子ども会議を放課後開催する。
・参加者は、有志１６人。
・主に子どもたちのやりたい遊び、遊び方を議論してもらう。
・ゲーム内容：（ゲーム）・かくれんぼ鬼・宝探し・フットサル・ペットボトルボーリングに決定。
・遊びのルール、当日準備するものなどを決めてもらう。

○遊びの広場会議開催
・２００８年１月１１日（金）月小おやじの会で遊びの広場会議を行いました。
・当日の大人の支援体制（役割分担や時間配分）、準備するものの確認、見えない部分の安全ルールについてみんなの合意を得る。

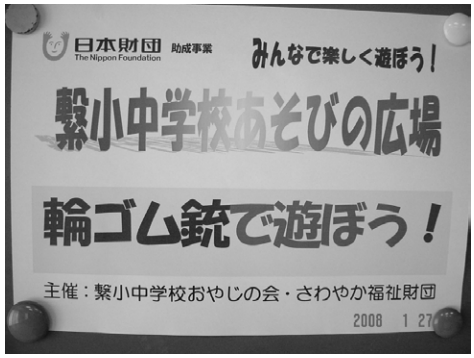
事務局より
「子どもの企画会議を開催し、子どもたちから本当に遊びたい遊びをじっくりと聴けて、子どもたちとの信頼関係を構築できたことが一番大きな収穫だった。子ども会議のプロセスを面倒くさがらずに行えたことが、結果として子どもの当日のはつらつした動き、責任ある行動、高い満足度につながったと思う。」（月小おやじの会世話人）。この文章が、すべてを物語った活動であった。子どもたちの思いを実現するために、大人たちが子どもの声に耳を傾けた。それが、取り組みの大成功を生んだと確信する。

繋（つなぎ）小中学校 あそびの広場

～輪ゴム銃で遊ぼう～

日　時：2008年1月27日（日）　10：00～15：00
参加者：36人　子ども18人（含中学生2人）
　　大人18人（男10人　女8人）
内容：最初に基本的な輪ゴム銃の仕組みと作り方を紹介し、みんなで基本的な輪ゴム銃を作成に取り組み、その後、自由に輪ゴム銃を作成してもらい、的あてゲームなどをして楽しんだ。

雪の中のつなぎ地区活動センター



まず、お父さんたちが基本の輪ゴム銃づくりを説明し、子どもたちは熱心に聞き入っていた。

その後、自由に自分の作りたい輪ゴム銃づくりに取り組みました。

マイ輪ゴム銃づくりに大人も子どももいっしょに夢中になって作成していた。

子どもたちの楽しい創造から、いろいろな銃が瞬く間にできあがる。

おやじたちの手打ちそば・手ぬきうどんづくりにまちのお店の方も(プロ)も参加してくれて、昼食はお代りをする子どもたちで、あっという間に、準備したそばもうどんもなくなった。

的あてゲーム。ちびっ子ガンマンたちが腕を競いました。しかし、なかなか当らない。

自分の順番になるまで、子どもたちは周りで自由にあそび始めた。

奥の体育館でも準備したあそび道具のブーメランやフラフープ、ボール等であそぶ。

割りばしをカッターナイフや肥後守で削りはじめ、おでんの串にする、鉛筆けずりの練習など削ることに熱中する子どもたちの姿、おやじの見守る姿があった。

最後に全員で、自慢の輪ゴム銃を持って、大満足！

事務局より

今回の輪ゴム銃づくりは、おやじの会の人たちが中心になって実施してくれた。おやじたちは、事前の準備、当日のナイフの持ち方指導や的あての審判などサポートにめまぐるしい活躍だったが、おやじたちだけでなく、お母さんたち、地域の大人も子どもたちの前に出しゃばることもなく、根気強く子どもたちに寄り添いながら、いっしょに遊んでサポートしていた。子どもたちは、なれないナイフを使いながら、創造性を逞しくして、お互いに協力しながら大人たちが考えつかないような輪ゴム銃を完成させ、自慢しながら、自信をつけていた。

宇都宮フォーラム

「地域で支える子どもの育ち、大人の育ち」

日　時：2007年11月14日（水）　9：30～11：30
場　所：宇都宮市文化会館
参加者：350人（男40人　女310人）

基調講演「地域で育む子どもの育ち・大人の育ち」

廣瀬　隆人さん(宇都宮大学生涯学習教育研究センター教授)

1. 子どもの教育責任の分担をすること。
   （学校、保護者・家族、地域の応分の分担が必要）
2. 教育責任を分担し得る「教育力」を引き出していく。
   大人は子どもと出会うことで大人としての「教育力」を引き出される。
3. 地域を信頼し、お世話になること。（地域に感謝）
4. 親や家庭に教育責任を集約させる教育評論は、教員と保護者を分断するエネルギーに働く危険性がある。問題を自分の内側に置くことが大切。
5. PTA（親）は、単体では家庭教育、組織では地域教育、まちづくりの団体である。
   地域と家庭はつながっている。子育てが終わっても教育市民。
6. 家庭の教育力は本当に低下したのか？
   学校・保護者の責任を追及しその責任を問う、論調こそが教育を衰退させる。
   本来協力すべきもの。
7. 子どもたちの振り返り
   子どもたちは体験を通して成長し、少年は社会から必要とされて大人になる。

現在、世界の教育改革の潮流として「教育責任の分担」をめざし、学校・保護者・家族・地域がつながりながら応分に分担すべきである。子どもは社会的な存在であり、教育は公共的なものである。

また、大人も子どもと出会うことで潜在的な教育力を引き出される。地域の大人が学校支援のボランティアに参加することで、子どもや学校にメリットがあるだけでなく大人が自分自身の中の教育力を意識する。

また、親も地域を信頼してお世話になることが必要であり、迷惑をかけないようにするのではなく、そのことに感謝しながら育てていくことが大切。子どもが「地域に迷惑」をかけて成長するのが当たり前でその迷惑を受け入れられることこそ地域の教育力。コミセン育ちの子どもたちは地域の高齢者と交流し、学年があがるとリーダーになってもいく。

地域にコミセンのような拠点になるところがあれば、地域の資源をうまく子どもたちの育ちに活用することができる。親や家庭に教育責任を集約させる空疎な教育評論は家庭と学校を分断することになり問題の解決にはならない。「問題を自分の内側に置く」という意識が必要。やはり子どもは公共性をもった存在である。PTAの組織は地域教育やまちづくりの基盤をつくる団体でもある。親や学校の批判でで終わるのではなく、地域の人々の教育力が活性化すると親や学校の教育力を増強する大きな力になる。

栃木県の「マイチャレンジ」の事業で中学生に振り返りをさせることで大きな学びがある。自分たちを洞察する力は学校ではなくそのような地域の活動の中でこそ発揮される。地域の中で「必要」とされることで大人になる。子どもたちを大人にする社会にしていく役割を地域は担うことができる。地域の大人が笑顔で子どもを受容している地域で子どもたちは健やかに育っていくのである。

○事例発表

伊村　務さん（ゆかいな仲間ネットワークスタッフ ・ 地域ねっとわーくせんたー　ごえもん）

自然をキーワードに子どもたちのためのさまざまな体験活動を実施している。「夜の生き物観察会」「七夕の夕べ」「さかなのつかみどり」「昆虫採集会」など、地域の子どもたちと顔見知りの関係になり挨拶をかわす。

普段は県庁の農業振興課の職員であり、自分の専門分野の農薬の是非のついてのディベートをするという時に出前授業をしたのがきっかけで、子どもたちの活動にはまった。おもしろがって　楽しくやるのが秘訣。

学校は忙しい。地域の力をもって使ってほしい。学校とも仲間であり友達のような関係でいたい。

【→講師ｺﾒﾝﾄ】

地域で教育力を発揮するきっかけになったのは、まさに子どもたちとの出会ったこと。土日には地域活動をし、いろいろな団体にどこでも顔を出し顔見知りの関係になり、ネットワークを広げることが重要。子どもの顔が分かる関係になると、子どもたちにとっては「学校の外でのもう一人の担任」である。このような人が地元にいるといい。

高橋　則子さん（中央地域コミュニティセンター）

「みんなで中央小に泊まろう」などの企画

コミュニティーセンターでこの４月から子どもを対象にした事業を51回。夏休み中も子どもたちの居場所を提供した。

町づくりの団体で子どもたちの健全育成も目指した仲間たちで「子どもたちに地域で楽しい思いをさせよう」ということで、学校の空き教室を活用したコミセンで3年生から6年生対象に実施。PTAや健全育成の各団体と協力、夜銭湯に行くという企画も実現した。

企画の一部は事前の子ども会議で企画し大人がサポートをする。縦割りの活動になり、年長の子どもたちの成長が実感できる。

宇都宮市のジュニアリーダーの高校生の協力が子どもたちの憧れにもなり、いいお手本になった。
さまざまな連携のために、歩き回り直接会って思いを言葉で伝える。活動が終わると直接また会って感謝のことばを伝える。地域には素晴らしい資源があることを知る、見出すことが必要。
PTAで親として育つことになる。子どもの居場所をつくる活動を始めた。学校の中にも保護者と学校を結ぶ役割をしてくれる人が必要。小学生の体験の必要が大切なのでそれを地域で支えることが大切。

【→講師ｺﾒﾝﾄ】下の子の面倒を見て、子どもたちは大人になる。ジュニアリーダーの活躍の場ともなったことで高校生の役割ができ、活躍の場になった。地域でいろいろな人に直接会うこと、地域の高齢者の方をはじめ地域そのものを大事にする。そこからプログラムが湧き出てくる。それが地域の底力。

コメント　若度　哲久さん（宇都宮市PTA連合会長）

お二人の活動が子どもと関る小さなきっかけを大きな活動につなげていって、仲間とともに地域で子どもたちを育てる活動をしていらっしゃる。このような取り組みの実践が放課後子ども教室などに活用できるといいだろう。子どものためのPTAとしてよりよい環境を提供する組織である。

講師まとめ

みなさんの、地元で伊村さん高橋さんを探そう！それができなければ自分の中にある伊村さん、高橋さんを探そう！

宇都宮大学「科学実験遊び」

日　時：2007年12月1日（土）9：30～11：30
場　所：宇都宮大学生涯学習教育研修センター
　　大講義室
参加者：181人　子ども75人
　　大人106人（男40人　女66人）
　　宇都宮大学周辺の4校の小学校の親子
　　青少年指導員（地域教育力向上事業地域教育活動支援者）17人・スタッフ15人含む
講　師：宇都宮大学の教育学部　准教授 人見久城先生　学生（理科専門・その他）（約40名）

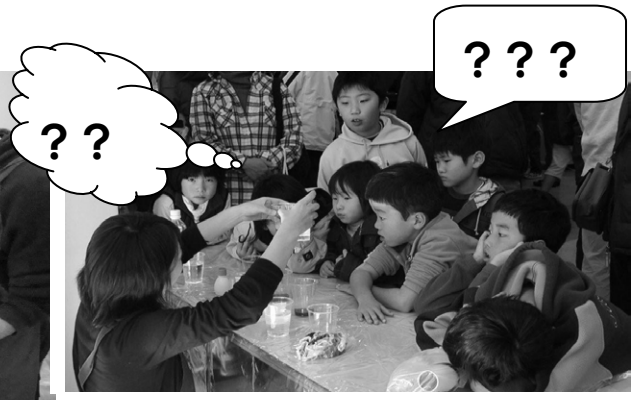
①人見先生のデモンストレーション

子どもたちの驚きの声が上がる
原理を勉強するというより、
不思議なことを素直に楽しむ
ことで、遊びの魅力を感じてもらう。

②コーナーごとに、大学生のインストラクターが実演し、親子で体験

青少年指導員は体験しながら技術習得

コップに虹を閉じ込めよう！　不思議な壁・浮沈子・音の不思議・バランストンボ
ミラクルミラー・ペットボトルトルネードなど



私もやってみたい！
教えて！教えて！

「科学実験遊び」のポイント

・「科学実験遊び」は理論などの学習ではなく、「不思議」に触れて楽しむこと。
・科学の力を使った「もの」をつくり親子で一緒に楽しむ。
・「どうして？」を親子の話題にする。一緒に考える。
・「また、作ってみよう！」「また、挑戦しよう！」につながる
・　お父さんたちも参加しやすいメニュー

指導者研修としての要素

・「遊びの広場」などで、子どもたちと一緒に遊ぶためのメニューを増やす
　→　16日の「陽南コミュニティセンター」では、インストラクターとして
　　デモンストレーションをする。事前の準備も行う。
・子どもたちとのかかわり方を学ぶ
　→　宇都宮市の指導者養成ガイドブックと「遊びの手引き」を参考にしてもらう

事務局より

・「科学実験」を遊びとして企画することは、子どもたちの興味をひきつけ親子で楽しむ要素がある。
・指導者養成をかねている部分では、地域の協力者を増やすというメリットがあった。
・大学生は教育学部の学生たちなので、子どもたちの自主性を尊重して接することができる。
今後の課題として、学生や講師にこのガイダンスの趣旨を明確に伝える必要がある。